

⑦福富型協働的な学び

本校では、小中一貫教育を生かした異学年集団や地域の人々との協働を通し、探究的な学習に取り組んできました。小学校第3・4学年、第5・6学年、中学校第1・2学年は複数学年で活動しており、協働の機会を充実させました。異学年で学習を行うことで、上の学年のリーダー性を育成したり、学習を下学年につないだりすることができます。

学校運営協議会を窓口として地域連携をすすめ、積極的に地域へ出たり体験したりしています。地域の方から学ぶことを通して、多様な視点から課題について考えさせるようにしています。ただ情報を収集するだけでなく、課題をよりよく改善するため、新たな方法を考えたり、地域の方に提案を行ったりしています。



⑧学校運営協議会

学校運営協議会には、地域との連携・橋渡し役をお願いし、学習支援体制を構築していただきました。地域で活動されている様々な専門の方々に声をかけていただき、地域人材バンクに登録していただきました。人材バンクを活用したり、学校運営協議会を窓口にしたりして取材・協力の依頼を行うことで、児童・生徒にとっての豊かな教育環境を作ることができています。また、コミュニティ・スクール推進員や地域学校協働活動推進員が学校と地域との連携の橋渡しになるような活動を行うことで、スムーズに地域と連携をすることができました。

地域の方々も地域に対する強い思いがあり、「こういうことを児童・生徒にさせてみてはどうだろう？」という意見もあります。しかし、本校では「子どものやりたいことを応援する」というスタンスでご協力していただきたいと常にお願ひしてきました。他者から課題を与えられるのではなく、自ら課題を見つけ探究を進める、主体性を身に付けるために大切な部分です。



⑨いよいよフィナーレ

単元末では、これまでの探究の成果を保護者やお世話になった地域の方、学校運営協議会の方に発表し、外部に発信します。中学校第3学年は、地域の特産野菜を使用した弁当の副菜の開発に関わり、弁当が実際に販売されたことなどを発表しました。しかし、課題によっては明確な結果が出ないまま単元末を迎えてしまうこともあります。「なぜ結果が出なかったのか?」「次はどうすればいいか?」しっかり考えさせます。探究的な学習の目的は、結果を出すことだけでなく、その過程で資質・能力の育成を図ることです。

福富小・中 探究マップ

福富町には、起業家や移住者が多く、魅力的な場所も数多く存在しています。福富小・中学校職員は「この豊かな地域を活用し、様々な人と出会い、思いや考えを知ることで、主体的に探究的な学習を行うことができるのではないか?協働的な学びを展開することで福富の地域に誇りを持ち、自己の生き方について主体的に考えることができるのではないか?」と考え、郷土福富を題材にした探究的な学習を進めました。3年間で関わっていただいた施設、探究の対象となった場所などを紹介します。ここには掲載しませんが、他にも域外で関わっていただいた施設もあります。

- 関わりのある施設・場所
- 小1
 - 小2
 - 小3・4
 - 小5・6
 - 中1・2
 - 中3

●ミコシギク

ミコシギクは「遺存植物」と言われており、広島県内では福富町内にしか自生していないとされている貴重な植物です。

中学生が保全活動を行っていることを知った学校運営協議会が中心となって、専門家や地域の方と「福富のミコシギクを守る会」を設立しました。



★ 東広島市役所 福富支所 生涯学習支援センター 社会福祉協議会 久芳地域センター

- 【小3・4】育てた野菜を使い、協力して地域のイベントを開催しました。
- 【中1・2】ごみ拾いを行って、出てきた疑問の解説、市の取組事例を紹介していただきました。
- 【中3】町内における、住民支援活動についてのインタビューや活動を行いました。



★ 道の駅 湖畔の里 福富

- 【小2】どんなものが売られているか、どんな人が働いているか探検して調べました。
- 【小5・6】道の駅で開催されたアクアフェスタで、「みんなを笑顔にする」をテーマに、スタンプラリーやワークショップなどを企画し実施しました。
- 【中1・2】福富町の観光マップを作成し、掲示していただきました。